

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第30集

# 市内遺跡発掘調査報告書1992

1994. 3

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第30集

# 市内遺跡発掘調査報告書1992

1994. 3

佐久市教育委員会

## 例 言

1 本書は、1992年度（平成4年度）において個人住宅、民間開発及び公共開発に係る試掘調査並びに立ち会い調査を実施した市内遺跡発掘調査報告書である。

2 市内遺跡発掘調査の費用は、全額を国庫補助金、県費補助金、市費等の公費により賄った。

### 3 事務局の構成

◎発掘調査受託者 教育長 大井季夫

#### 事務局

教育次長 奥原秀雄

埋蔵文化財課 課長 上原正秀

管理係 係長 桜井牧子

埋蔵文化財係 係長 草間芳行、高村博文、林 幸彦、三石宗一、須藤隆司、小林真寿、  
羽毛田卓也

調査主任 佐々木宗昭、森泉かよ子

調査員 小林よしみ、柳沢豊志子、小林陽子、桜井牧子、眞嶋保子

4 本書は、各遺跡の執筆は発掘調査担当者が、編集は林 幸彦が行った。また、記載図面は、調査主任佐々木宗昭、調査員の小林よしみ、柳沢豊志子、小林陽子、桜井牧子、眞嶋保子が作成した。

5 本書掲載の関係資料等は、佐久市教育委員会の責任下に保管してある。

# 目 次

1 上久保田向遺跡Ⅰ……………(1)	34 芝宮遺跡群4……………(35)
2 曾根新城遺跡Ⅳ……………(1)	35 長土呂遺跡群1……………(36)
3 曾根新城遺跡1……………(1)	36 上芝宮遺跡1……………(37)
4 東ノ西遺跡……………(3)	37 芝宮遺跡群3……………(38)
5 中原遺跡群1……………(5)	38 平尾山G・H地点……………(39)
6 中原遺跡群3……………(6)	39 南下中原遺跡Ⅱ……………(41)
7 岩村田遺跡群3……………(7)	40 岩井堂遺跡……………(43)
8 岩村田遺跡群4……………(7)	41 栗毛坂遺跡群10……………(44)
9 岩村田遺跡群5……………(7)	42 長坂口遺跡群1……………(45)
10 岩村田遺跡群6……………(7)	43 長坂口遺跡群2……………(45)
11 岩村田遺跡群7……………(7)	44 立石遺跡3……………(47)
12 岩村田遺跡群8……………(7)	45 栗毛坂遺跡群3……………(51)
13 岩村田遺跡群9……………(7)	46 栗毛坂遺跡群4……………(51)
14 栗毛坂遺跡群2……………(11)	47 西芝間遺跡群2……………(53)
15 栗毛坂遺跡群5……………(11)	48 大塚遺跡群1……………(55)
16 栗毛坂遺跡群6……………(11)	49 周防原遺跡群3……………(56)
17 栗毛坂遺跡群7……………(11)	50 東内池遺跡2……………(57)
18 栗毛坂遺跡群8……………(11)	51 西赤産遺跡5……………(58)
19 栗毛坂遺跡群9……………(11)	52 善屋前遺跡群3……………(59)
20 西一本柳遺跡Ⅰ……………(15)	53 柳堂遺跡2……………(60)
21 上久保田向遺跡Ⅰ……………(16)	54 濁り遺跡1……………(60)
22 上久保田向遺跡Ⅴ……………(16)	55 宮の後遺跡2……………(61)
23 上久保田向遺跡Ⅱ……………(16)	56 中反遺跡群1……………(62)
24 跡坂遺跡群1……………(18)	57 四つ子遺跡……………(63)
25 上久保田向遺跡Ⅲ……………(20)	58 平賀坂跡1……………(63)
26 根々井芝宮遺跡……………(22)	59 新町遺跡2……………(65)
27 一本柳遺跡群2……………(24)	60 平賀中屋敷遺跡Ⅰ……………(67)
28 宮の後遺跡Ⅰ……………(26)	61 下小平遺跡Ⅰ……………(68)
29 濁り遺跡……………(27)	62 芝宮遺跡群5……………(69)
30 一本柳遺跡群Ⅰ……………(29)	63 下前田原遺跡群2……………(70)
31 西一本柳遺跡群Ⅱ……………(31)	64 上の城遺跡群2……………(71)
32 下駒端遺跡Ⅲ……………(32)	65 善屋前遺跡群4……………(72)
33 下駒端遺跡Ⅳ……………(34)	
付表 1992年度市内遺跡発掘調査一覧表……………(74)	
付図 1992年度市内遺跡発掘調査位置図……………(75)	

## 試掘調査

### 枇把坂遺跡群

#### 1 上久保田向遺跡 I

所在地	佐久市大字岩村田205-1, 215-1
開発主体者	佐久市区画整理課
開発事業名	市道号新設工事
調査期間	平成4年4月4日
面積	205.0㎡
調査担当者	林 幸彦、三石 宗一



枇把坂遺跡群上久保田向1遺跡・曾根新城遺跡IV・曾根新城遺跡1位置図(1:10,000)

#### 立地と経過

枇把坂遺跡群は、田切りの台地上にあって岩村田駅付近より仙祿湖にかけて南北に細長く展開する。西側は険しく谷地形を形成し、東側は比高差の少ない低地となっている。標高は705m~740mを測る。本遺跡群内では、円正坊遺跡、上直路遺跡、枇把坂遺跡等が発掘調査され、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代の遺構・遺物が検出されている。佐久地方において弥生時代集落が標高720m以上に立地することはまれであるが、本遺跡群遺跡も同様に、弥生時代遺構の密集地帯と皆無の地帯とが明確に標高720mにある。

今回、佐久市岩村田北部第一土地区画整理事業の道路工事が計画され、事前に試掘・立会い調査を実施することとなった。

## 試掘調査

#### 2 曾根新城遺跡IV

所在地	佐久市大字岩村田112
開発主体者	佐久市区画整理課
開発事業名	工場用地造成
調査期間	平成4年6月17日
面積	230.0㎡
調査担当者	林 幸彦

## 立会い調査

#### 3 曾根新城遺跡1

所在地	佐久市大字岩村田80-1・91-1
開発主体者	佐久市区画整理課
開発事業名	市道号改良工事
調査期間	平成5年3月10日
面積	480㎡
調査担当者	林 幸彦



枇把坂遺跡群上久保田向遺跡1調査地点近景(北方から)

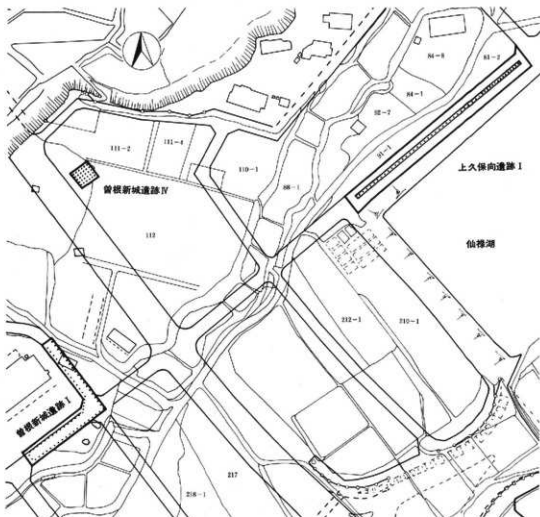
## 調査の結果

曾根新城遺跡Ⅳから掘建柱建物址2棟が確認されたが、他からは遺構は検出されなかった。



曾根新城遺跡Ⅳ調査地点近景（南方から）

曾根新城遺跡Ⅰ調査地点近景（西方から）



枇杷坂遺跡群上久保向遺跡Ⅰ・曾根新城遺跡Ⅳ・曾根新城遺跡Ⅰ調査全体図（1：2000）

## 試掘調査

### 4 東村遺跡群 東ノ割遺跡

所在地 佐久市大字下平尾 1492、  
1493  
開発主体者 (株) 平和不動産  
開発事業名 宅地造成  
調査期間 平成4年5月19日  
面積 2013.0 m<sup>2</sup>  
調査担当者 林 幸彦



東村遺跡群東ノ割遺跡位置図 (1:10,000)

#### 立地と経過

東村遺跡群は霞川の右岸にあって、標高721～725mを測る。東西を田切りにより画されている東側は10mを測る深い谷地形、西側は1～6mを測る比高差の少ない低地となっている。縄文時代から平安時代の遺物が表面採集されている。

本遺跡群の北端には、宅地造成にさいして緊急発掘調査された山伏木遺跡があり、縄文時代の住居址5軒・土坑7基、平安時代の住居址3軒・土坑1基、中世の堅穴状遺構5基・土坑9基・井土址1基等が検出されている。また、南方100mには燕城跡がある。

今回、株式会社平和不動産により宅地造成が計画されたため事前に試掘調査を実施することとなった。

#### 調査の結果

重機によりトレンチ調査を実施し、平安時代の住居址1棟を検出した。

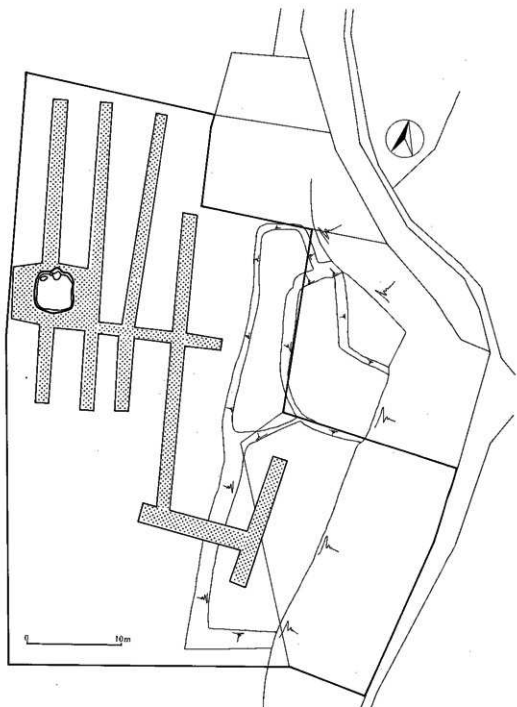
協議の結果、記録保存調査を行うことになった。



東村遺跡群東ノ割遺跡調査地点遠景 (北東方から)



東村遺跡群東ノ割遺跡調査地点近景 (南方から)



東村遺跡群東ノ側遺跡調査全体図 (1:400)



## 試掘調査

## 5 中原遺跡群 1

所在地 佐久市大字中込3801-1、他6筆  
 開発主体者 日誠総業株式会社  
 開発事業名 宅地造成  
 調査期間 平成4年5月20日  
 面積 1910.0㎡  
 調査担当者 林 幸彦



中原遺跡群1位置図(1:10,000)

### 立地と経過

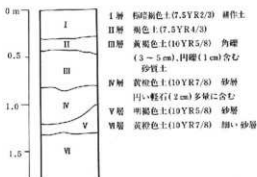
中原遺跡群は、津上製作所信州工場から三河田の集落にかけて展開する。遺跡群の南部は滑津川との比高25mを測る断崖となっている。標高は679~687mを測る。昭和62・63年梨の木遺跡から中世の遺構・遺物が検出されている。平成3年中原遺跡群2・4で立会い調査が実施されている。今回、日誠総業株式会社が宅地造成を計画したので、試掘調査を実施し遺構の有無を確認した。



中原遺跡群調査地点近景(東方から)

### 調査の結果

南北4本と東西1本のトレンチを入れたが、遺構・遺物とも検出されなかった。



中原遺跡群1土層模式図



中原遺跡群1調査全体図(1:1,500)

## 試掘調査

## 6 中原遺跡群 3

所在地 佐久市大字中込3713-4  
開発主体者 佐久警察署  
開発事業名 佐久警察署職員宿舍建設  
調査期間 平成4年5月20日  
面積 1773.0m<sup>2</sup>  
調査担当者 林 幸彦



中原遺跡群3位置図(1:10,000)

### 立地と経過

中原遺跡群は、津上製作所信州工場から三河田の集落にかけて展開する。遺跡群の南部は滑津川との比高25mを測る断崖となっている。標高は679~687mを測る。昭和62・63年製の木遺跡から中世の遺構・遺物が検出されている。平成3年中原遺跡群2・4で立会い調査が、平成4年5月に中原遺跡群1が試掘調査されている。今回、佐久警察署が職員宿舍を建設計画したので試掘調査を実施した。

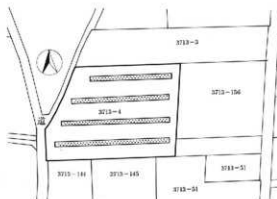


中原遺跡群3調査地点近景(南西方から)

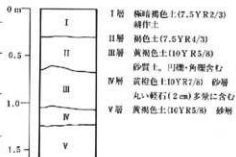
### 調査の結果

東西に3本のトレンチを入れて遺構の存在の有無を確認した。

遺構・遺物は確認されなかった。



中原遺跡群3調査全体図(1:1,500)



中原遺跡群3土層模式図

## 7～13 岩村田遺跡群3・4・5・6・7・8・9

遺跡名	7 岩村田遺跡群3	8 岩村田遺跡群4	9 岩村田遺跡群5	10 岩村田遺跡群6
所在地	佐久市大字岩村田 119-1・2, 156-1・2外	佐久市大字岩村田 150-1	佐久市大字岩村田 122-1・3・4外	佐久市大字岩村田 118-2・3外
開発主体者	渡辺一男ほか	小林 博	佐久区画整理課	佐久区画整理課
開発事業名	貸店舗新築	貸店舗新築	道路工事	盛り土
調査期間	平成4年6月1日	平成4年6月2・3日	平成4年10月19・20日	平成4年10月20日
面積	6,000㎡	1,707㎡	1,900㎡	3,312㎡
調査担当者	林 幸彦	林 幸彦	林 幸彦	林 幸彦
遺跡名	11 岩村田遺跡群7	12 岩村田遺跡群8	13 岩村田遺跡群9	
所在地	佐久市大字岩村田 149-1・2外	佐久市大字岩村田 138-1, 141外	佐久市大字岩村田 120-1, 146-3, 141外	
開発主体者	小田川利男ほか	小林多吉	佐久市区画整備課	
開発事業名	貸店舗新築	小林ビル新築工事	道路工事	
調査期間	平成4年6月2日	平成4年10月28日	平成4年10月20日	
面積	1,600㎡	773.73㎡	850㎡	
調査担当者	林 幸彦	林 幸彦	林 幸彦	

## 立地と経過

本遺跡群は、岩村田の市街地北半から仙祿湖東方にのび、標高702～737mを測る。

仙祿湖一帯は上信越自動車道のインターチェンジがおかれ、現在佐久市岩村田北部土地区画整理事業が進められ、区画内での店舗建築や区画事業に関する道路工事が盛んに行われている。



岩村田遺跡群3・4・5・6・7・8・9位置図(1:10,000)

## 調査の結果

いずれの調査地点からも遺構は、検出されなかった。岩村田遺跡群3・岩村田遺跡群4には河川の流路がみられた。



岩村田遺跡群 3 調査地点近景 (西方から)



岩村田遺跡群 3 調査地点近景 (南西方から)



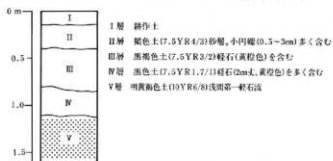
岩村田遺跡群 3 調査地点近景 (西方から)



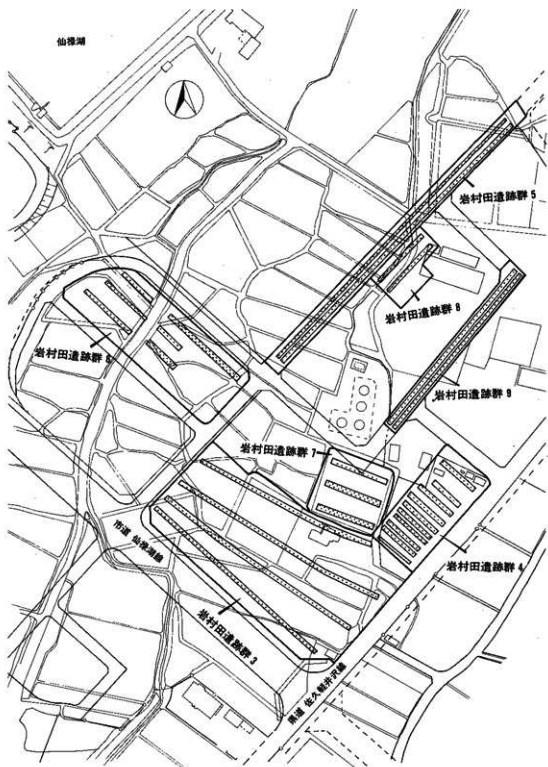
岩村田遺跡群 3 調査地点近景 (南西方から)



岩村田遺跡群 3・7 調査地点近景 (西方から)



岩村田遺跡群 3 土層模式図



岩村田遺跡群 3・4・5・6・7・8・9 調査全体図 (1:2,000)



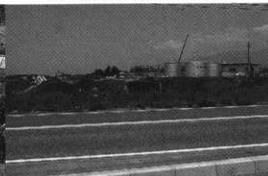
岩村田遺跡群 7 調査地点近景 (西方から)



岩村田遺跡群 5 調査地点近景 (南方から)



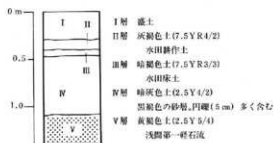
岩村田遺跡群 6 調査地点近景 (東方から)



岩村田遺跡群 4 調査地点近景 (南東方から)



岩村田遺跡群 4 調査地点近景 (北東方から)



岩村田遺跡群 4 土層模式図



岩村田遺跡群 5 土層模式図

試掘調査  
立会い調査 14～19 栗毛坂遺跡群 2・5・6・7・8・9

	試掘調査	立会い調査	立会い調査	立会い調査
遺跡名	栗毛坂遺跡群 2	栗毛坂遺跡群 5	栗毛坂遺跡群 6	栗毛坂遺跡群 7
所在地	佐久市大字岩村田	佐久市大字岩村田	佐久市大字岩村田	佐久市大字岩村田
開発主体者	白井寿隆	佐藤 学	萩原初雄	佐久市区画整理課
開発事業名	貸店舗建築	倉庫建築	貸事務所・集荷所	道路工事
調査期間	平成 4 年 6 月 5 日	平成 5 年 1 月 23・25 日	平成 4 年 4 月 8 日	平成 4 年 4 月 8 日
面積	829㎡	1,604㎡	3,341㎡	536㎡
調査担当者	林 幸彦	林 幸彦	林 幸彦	三石 宗一
	立会い調査	試掘調査		
遺跡名	栗毛坂遺跡群 8	栗毛坂遺跡群 9		
所在地	佐久市大字岩村田	佐久市大字岩村田		
開発主体者	佐久市区画整理課	株式会社三和塗葺		
開発事業名	道路工事	事務所・倉庫建築		
調査期間	平成 4 年 8 月 25 日 5 年 1 月 14 日、2 月 5 日	平成 4 年 10 月 28 日		
面積	870㎡	620㎡		
調査担当者	三石 宗一	林 幸彦		

立地と経過

栗毛坂遺跡群は、湯川に架かる濱石橋から御代田町境にかけて広く展開し、標高は705m～760mを測る。

仙祿湖一帯は上信越自動車道のインターチェンジがおかれ、現在佐久市岩村田北部土地区画整理事業がすすめられ、区画内での店舗建築や区画事業に関する道路工事が盛んに行われている。

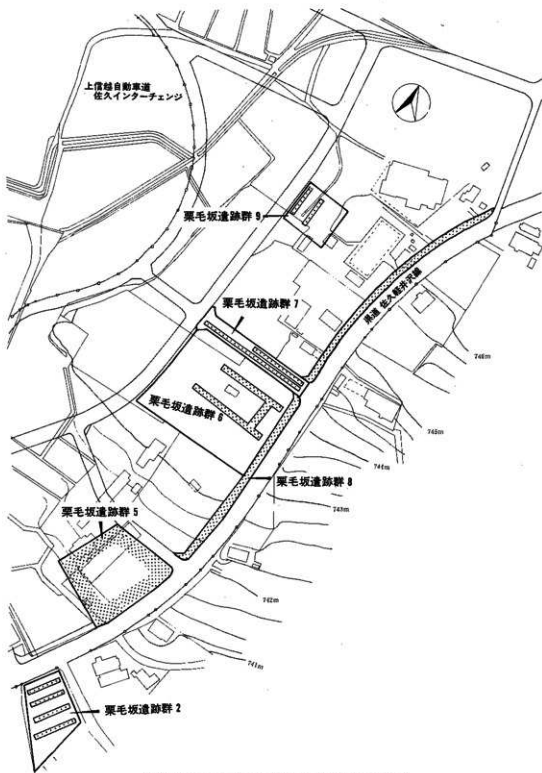
上信越自動車道の用地内では、長野県埋蔵文化財センターによる発掘調査が実施されている。湯川右岸の低位段丘面の栗毛坂遺跡群A地区からは、縄文時代早期・前期、古墳時代前期・後期の遺物と遺構が検出されている。台地上のB地区からは、縄文時代後期、弥生時代後期、古墳時代前期・後期、奈良・平安時代、中世以降の遺物・遺構が検出されている。

調査の結果

各試掘・立会い調査地点からは、遺構・遺物の検出はなかった。



栗毛坂遺跡群 2・5・6・7・8・9 位置図  
(1:10,000)

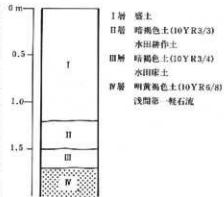


栗毛坂遺跡群 2・5・6・7・8・9 調査全体図 (1:2,000)





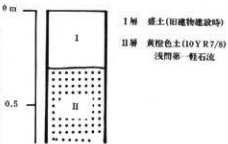
栗毛板遺跡群 2 調査地点近景 (南西方から)



栗毛板遺跡群 2 土層模式図



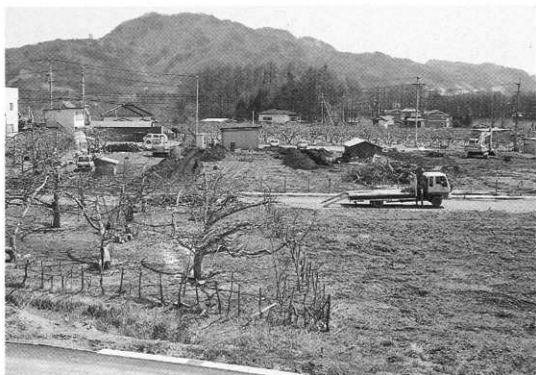
栗毛板遺跡群 5 調査地点近景 (東方から)



栗毛板遺跡群 5 土層模式図



栗毛板遺跡群 8 調査地点近景 (南方から)



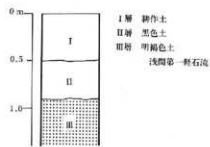
栗毛板遺跡群 6・7 調査地点近景（西方から）



栗毛板遺跡群 7 調査地点近景（西方から）



栗毛板遺跡群 6 調査地点近景（南西方から）



栗毛板遺跡群 7 土層模式図

## 試掘調査

## 20 一本柳遺跡群 西一本柳遺跡 I

所在地 佐久市大字岩村田  
開発主体者 長野県立岩村田高校  
開発事業名 野球部部室新築  
調査期間 平成4年6月5日  
面積 60.0㎡  
調査担当者 林 幸彦



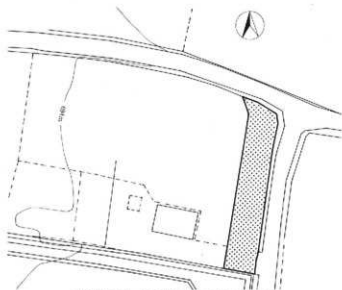
一本柳遺跡群西一本柳遺跡 I 位置図 (1:10,000)

### 立地と経過

一本柳遺跡群は、湯川右岸の台地上にあって標高689m~700mを測る。本遺跡群内は、昭和143年の佐久市による一本柳住宅団地造成いらい、宅地化が進んでいる。調査された遺跡は、東一本柳遺跡、北一本柳遺跡、東一本柳古墳、西一本柳遺跡 I 等があり、弥生時代中期・後期、古墳時代中期・後期、奈良・平安時代、中世の遺物・遺構が多く検出されている。

今回、岩村田高校が野球部部室建築を計画したため、遺構存在を確認するため試掘調査を実施した。

調査の結果 試掘調査の結果、弥生時代中期の住居址1棟、溝状遺構1基等が確認され、記録保存調査することとなった。



一本柳遺跡群西一本柳遺跡 I 調査全体図 (1:500)



西一本柳遺跡 I 調査地点近景 (西方から)

## 試掘調査

枇杷坂遺跡群

### 21 上久保田向遺跡 I

所在地 佐久市大字岩村田81-1、  
91-1、211-1  
開発主体者 佐久市区画整理課  
開発事業名 道路工事  
調査期間 平成4年4月8日  
面積 205.0㎡  
調査担当者 三石 宗一 林 幸彦



枇杷坂遺跡群上久保田向遺跡I・V・II位置図(1:10,000)

## 試掘調査

枇杷坂遺跡群

### 22 上久保田向遺跡 V

所在地 佐久市大字岩村田201-1、  
202-1・3・4、203  
開発主体者 佐久市区画整理課  
開発事業名 道路工事  
調査期間 平成4年6月18日～20日  
面積 420.0㎡  
調査担当者 森泉 かよ子 林 幸彦

#### 立地と経過

枇杷坂遺跡群は、田切りの台地上にあって岩村田駅付近より仙稜湖にかけて南北に細長く展開する。西側は険しく谷地形を形成し、東側は比高差の少ない低地となっている。標高は705m～740mを測る。

本遺跡群内では、円正坊遺跡、上直路遺跡、枇杷坂遺跡等が発掘調査され、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代の遺構・遺物が検出されている。佐久地方において弥生時代集落が標高720m以上に立地することはまれであるが、本遺跡群も他の遺跡と同様に、遺構の密集地帯と皆無の地帯との境が明確に標高720mにある。

今回、佐久市岩村田北部第一土地区画整理事業の道路工事が計画され、事前に試掘確認調査を実施することとなった。

## 試掘調査

枇杷坂遺跡群

### 23 上久保田向遺跡 II

所在地 佐久市大字岩村田219-1  
開発主体者 佐久市区画整理課  
開発事業名 道路工事  
調査期間 平成4年6月11・18・19日  
面積 675.0㎡  
調査担当者 森泉 かよ子

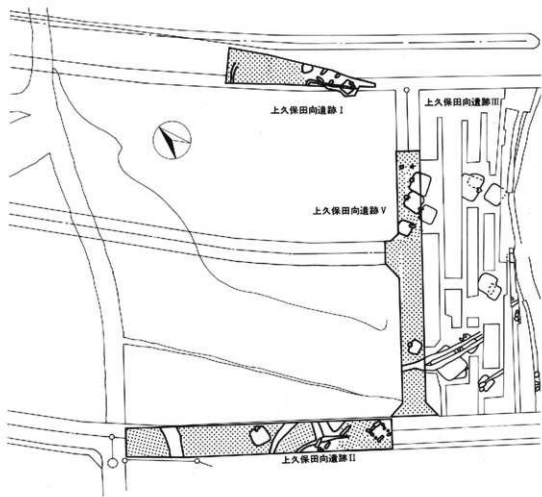
#### 調査の結果

上久保田向遺跡 I からは、平安時代の住居址 1 棟等、上久保田向遺跡 V からは、古墳時代後期～平安時代の住居址 5 棟等、上久保田向遺跡 II からは、平安時代の住居址 1 棟等が検出された。

保護協議の結果、記録保存調査を実施した。



視覚坂遺跡群上久保田向遺跡V調査地点近景（北方から）



視覚坂遺跡群上久保田向遺跡I・V・II調査全体図（1：1,000）

## 試掘調査

## 24 跡坂遺跡群 1

所在地 佐久市大字横根751-1、  
752-1・2、760-2、795-5、  
753-1・2・3・4・5

開発主体者 (株)西軽企画

開発事業名 店舗建築

調査期間 平成4年6月22日

面積 5,926.0㎡

調査担当者 林 幸彦



跡坂遺跡群1位置図(1:10,000)

### 立地と経過

跡坂遺跡群は、蔘科製作所から湯川に架かる平根橋にかけて南北に細長く展開している。東側と西側は深く険しい田切りの谷地形をみせている。

本遺跡群内は、市内の他所に比べると大規模な開発が少なく、発掘調査はこれまで行われていない。今回、株式会社西軽企画が店舗建築を計画したため、遺構の存在確認調査を実施することとなった。

### 調査の結果

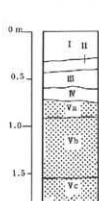
東西に3本、南北に7本の試掘トレンチを掘り下げたが、遺構・遺物は検出されなかった。調査地点東方湯川沿いには、土篩器が表採できる。



跡坂遺跡群調査地点近景(西方から)



跡坂遺跡群調査地点近景(北方から)

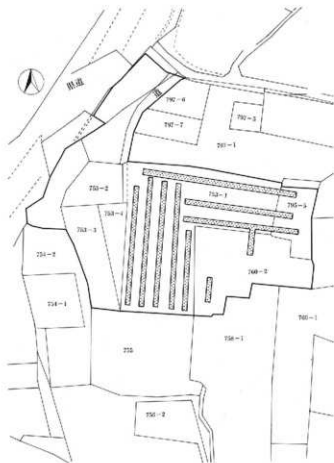


- I層 黒褐色土(10YR2/2) 耕作土
- II層 黒褐色土(10YR2/3)
- III層 黒褐色土(10YR2/2)
- IV層 暗褐色土(10YR3/4)
- V層 浅間帯一帯石流
- Va層 明褐色土(7.5YR5/8) 軽石(20-30cm)少量含む
- Vb層 明褐色土(7.5YR5/6) 角礫(2cm)含む
- Vc層 濃い黄褐色土(10YR7/3) シルト質層

跡坂遺跡群1土層模式図



跡坂遺跡群1土層



跡坂遺跡群1調査全体図(1:1,500)

所在地 佐久市大字岩村田181-2、  
182、201-1・2、202-1・2・3、  
202-3、203、205-1、206-1  
開発主体者 (株)おぎのやドライブイン  
開発事業名 ドライブイン建築  
調査期間 平成4年6月24日～26日  
面積 3,600.0㎡  
調査担当者 林 幸彦



枇杷坂遺跡群上久保田向遺跡Ⅲ位置図(1:10,000)

#### 立地と経過

枇杷坂遺跡群は、田切りの台地上にあって岩村田駅付近より仙稜湖にかけて南北に細長く展開する。西側は険しく谷地形を形成し、東側は比高差の少ない低地となっている。標高は705m～740mを測る。

本遺跡群内では、円正坊遺跡、上直路遺跡等が発掘調査されている。

今回、株式会社おぎのやドライブインがドライブイン建築を計画したので事前に試掘調査を実施した。



上久保田向遺跡Ⅲ調査地点近景(東方から)

#### 調査の結果

南北に12本、東西に1本のトレンチを掘り下げ精査したところ、用地内西側に集中して、古墳・奈良・平安時代の住居址10棟などが検出された。

協議の結果、建造物予定地や削平等変更されず、記録保存調査となった。

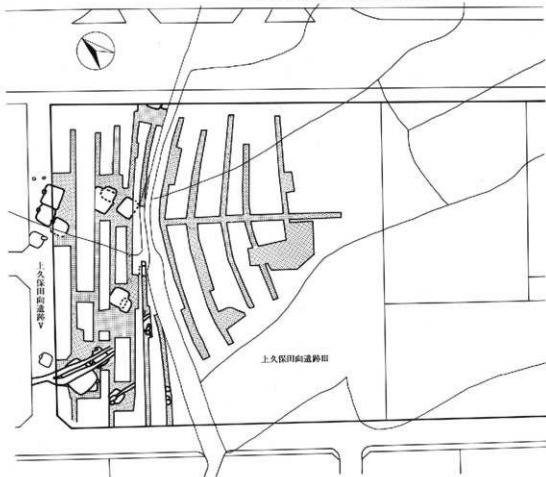


上久保田向遺跡Ⅲ遺構検出状況(南西方から)





上久保田向道跡田遺構検出状況（南東方から）



上久保田向道跡田調査全体図（1：1,000）

## 26 宮の上遺跡群根々井芝宮遺跡

所在地 佐久市大字根々井219～221、  
224-1、225-2、229、231-1・2・3、  
232-1・2、233～238、317-1、  
318-1、319-1、320～324、325-1、  
326-1、328、329、334、335

開発主体者 佐久市土地開発公社

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成4年6月26日、7月7日

面積 18,642.0㎡

調査担当者 羽毛田卓也 林 幸彦



宮の上遺跡群根々井芝宮遺跡位置図（1：10,000）

### 立地と経過

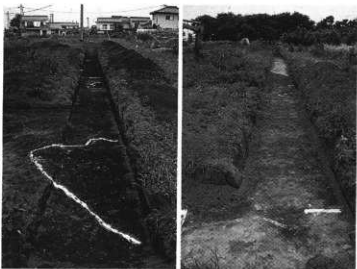
宮の上遺跡群は、湯川の左岸の台地上にあって標高680m内外を測る。湯川との比高は15mを測る。本遺跡群は、佐久建設事務所による県道小諸・中込線の道路改良工事に伴い、宮の上遺跡I・IIが発掘調査されている。平安時代の住居址5棟などが検出されている。

今回、佐久市土地開発公社が宅地造成を計画したため、事前に試掘調査を実施し遺構の分布状況を把握することになった。

### 調査の結果

東西・南北のトレンチを精査した結果、開発対象地の西側と北側台地の縁辺に遺構が密集して検出された。弥生時代中期・後期、古墳時代後期、奈良時代平安時代の住居址群等であった。

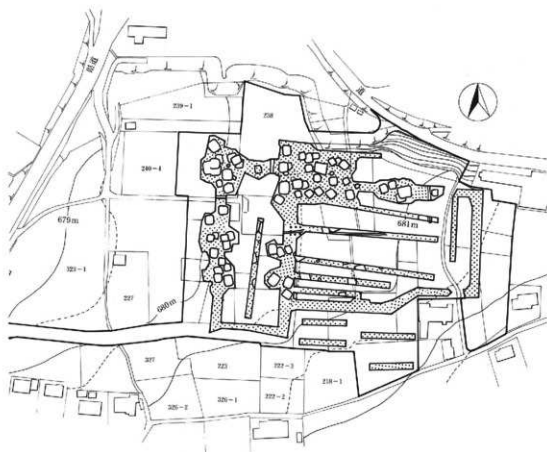
保護協議の結果、宅地造成地内の道路工事で破壊される部分を記録保存することとなった。



根々井芝宮遺跡遺構検出状況（北方から） 根々井芝宮遺跡遺構検出状況（西方から）



根々井芝宮遺跡遺構検出状況（南方から）



根々井芝宮遺跡調査全体図（1：2,000）

## 27 一本柳遺跡群 2

所在地 佐久市大字岩村田1804-1、  
1844-1、1845、1846  
開発主体者 東亜産業有限公司  
開発事業名 宅地造成  
調査期間 平成4年7月10・11日  
面積 2900.0㎡  
調査担当者 林 幸彦



一本柳遺跡群 2 位置図 (1:10,000)

### 立地と経過

一本柳遺跡群は、湯川右岸の台地上にあって標高689m~700mを測る。本遺跡群内は、昭和43年の佐久市による一本柳住宅団地造成に起因し、宅地化が進んでいる。調査された遺跡は東一本柳遺跡、北一本柳遺跡、東一本柳古墳、西一本柳遺跡Ⅰがあり、弥生時代中期・後期古墳時代中期・後期、奈良・平安時代、中世の遺構が多く検出されている。

今回、東亜産業有限公司が宅地造成を計画したので事前に遺構の有無を確認することとなった。



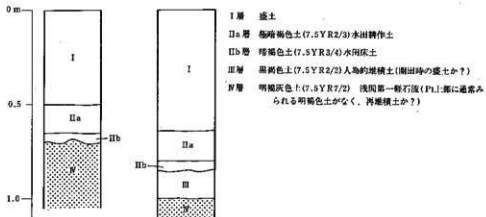
一本柳遺跡群 2 調査地点近景 (西方から)

### 調査の結果

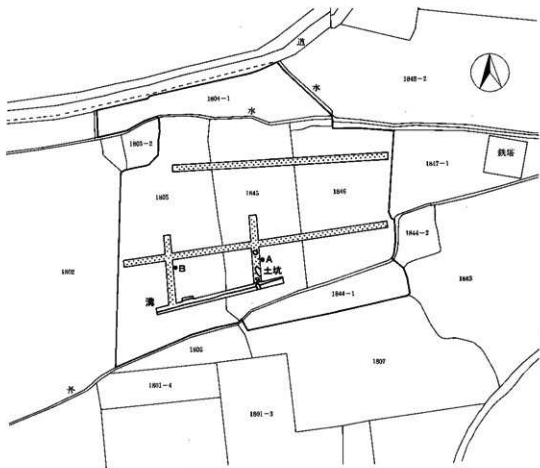
東西3本南北2本のトレンチを入れて試掘調査したところ、開田の際であろうか対象地のほぼ全域がすでに削平されていた。ただ、調査区の南側中央あたりには、遺構がみられ時期不明の掘立柱建物址と思われるビット3基と溝状遺構2基が検出された。すでに、盛り土が50~80cmほどされており、旧表土も含め基礎工事による破壊はまぬがれる。



一本柳遺跡群 2 調査地点近景 (北方から)



一本橋遺跡群 2 土層模式図



一本橋遺跡群 2 調査全体図 (1 : 1,000)

所在地 佐久市大字岩村田663  
 開発主体者 町田設計事務所  
 開発事業名 共同住宅新築  
 調査期間 平成4年7月11日  
 面積 1,631.0㎡  
 調査担当者 林 幸彦



宮の後遺跡1位置図 (1:10,000)

立地と経過

本遺跡は、岩村田高校の南方にあり標高は700m内外を測る。田切り地形のほぼ終焉する地帯で南西に向けて緩く傾斜する。今回、町田設計事務所が共同住宅を新築することになり、試掘調査を実施した。

調査の結果

南北に3本のトレンチを設定し、現水田面から1.5mほど重機で掘り下げた。

深さ60cmまでに旧水田が2枚確認でき、その直下のIV層の泥炭層からは中世陶器と須恵器が出土した。V層からは弥生土器が出土し、VI層の泥炭層からは植物(アシ?)が多量に検出された。V層は水田址の可能性がある。



宮の後遺跡1調査地点近景(北方から)



宮の後遺跡1土層模式図



宮の後遺跡1調査全体図 (1:1,500)

## 試掘調査

## 29 濁り遺跡

所在地 佐久市大字岩村田  
開発主体者 町田設計事務所  
開発事業名 共同住宅新築  
調査期間 平成4年7月11日  
面積 1,631.0㎡  
調査担当者 林 幸彦



濁り遺跡位置図（1：10,000）

### 立地と経過

本遺跡一帯は浅間山南麓に展開する険しい田切り地形がその姿を消失し、南北に細長い微高地と低地とが形成されている。東方に南流する濁川との間には幅100mほどの微高地が、西方には常田居屋敷遺跡群が所在する微高地がある。本遺跡北方には、弥生時代から平安時代の複合遺跡である周防畑遺跡群・長土呂遺跡群などが、南方には弥生時代後期集落が調査された西一里塚遺跡がある。この多く集落遺跡が存在する地帯に近接している低地は、水田址の存在有無が取りざたされてきた。しかし、現状が水田のため確かめるすべもなく、まったくの推察の域を越えることができなかった。今回、諏訪倉庫株式会社が倉庫・事務所建築を計画したため、周知の遺跡内ではないものの諏訪倉庫株式会社の理解を得、確認調査を実施した。

### 調査の結果

東西2本南北3本のトレンチで確認したところ、現水田下に少なくとも2面の水田状の土層堆積が認められた。協議の結果記録保存調査を実施することになった。



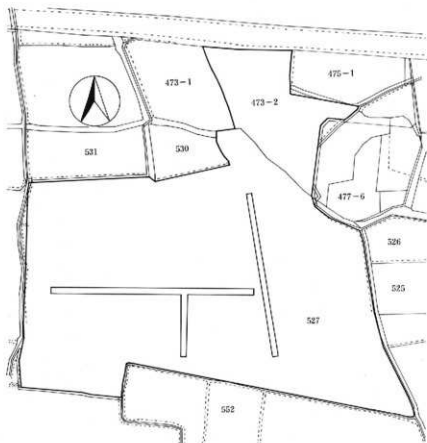
濁り遺跡調査地点近景（北東方から）



濁り遺跡土層（南方から）



濁り遺跡調査地点全景（北東方から）



濁り遺跡調査全体図（1：1,500）



所在地 佐久市大字岩村田2276  
 開発主体者 株式会社平和不動産  
 開発事業名 宅地造成  
 調査期間 平成4年7月24・25・27・  
 28・30日  
 面積 2,272.0㎡  
 調査担当者 林 幸彦



一本柳遺跡群1位置図(1:10,000)

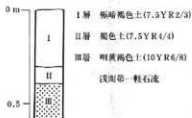
立地と経過

一本柳遺跡群は、湯川右岸の台地上にあって標高689m～700mを測る。本遺跡群内は、昭和43年の佐久市による一本柳住宅団地造成いらい、宅地化が進んでいる。調査された遺跡は東一本柳遺跡、北一本柳遺跡、東一本柳古墳、西一本柳遺跡Ⅰがあり、弥生時代中期・後期古墳時代中期・後期、奈良・平安時代、中世の遺構が多く検出されている。

今回、株式会社平和不動産が宅地造成を計画したので、事前に試掘調査を実施して遺構の存在の確認をおこなうことになった。

調査の結果

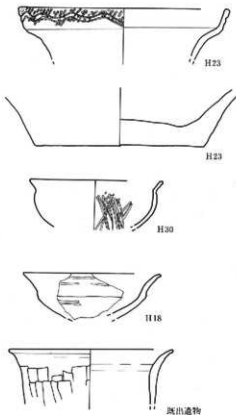
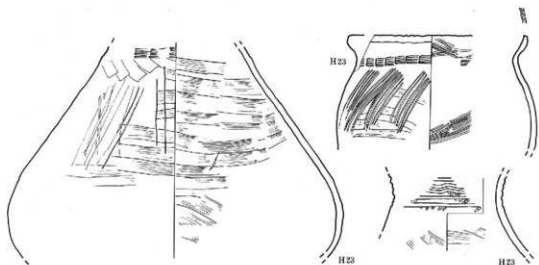
重機により東西に2本南北に4本のトレンチを入れて、遺構の確認をおこなった。その結果、少なくとも33棟の竪穴住居址と5基の土坑、1棟の掘立柱建物址、溝状遺構1基が検出された。竪穴住居址は、確認面から出土した土器により弥生時代中期・後期、古墳時代、奈良時代、平安時代の時期が考えられる。遺跡の保護については、現在協議中である。



一本柳遺跡群1土層模式図

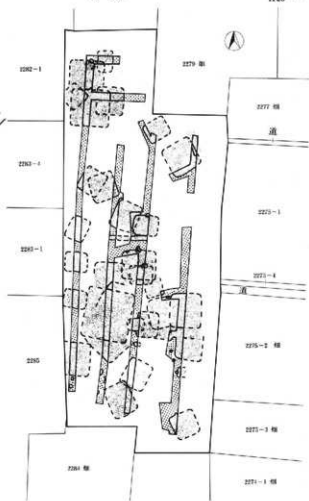


一本柳遺跡群1調査地点近景(南方から)



0 10cm

一本橋遺跡群1出土遺物実測図



一本橋遺跡群1調査全体図(1:750)

## 31 一本柳遺跡群西一本柳遺跡II

所在地 佐久市大字岩村田  
 開発主体者 佐久下水道組合  
 開発事業名 下水道工事  
 調査期間 平成4年8月31日  
 面積 2,253.0㎡ (試掘面積54㎡)  
 調査担当者 三石 宗一 林 幸彦



一本柳遺跡群西一本柳遺跡II位置図 (1:10,000)

### 立地と経過

一本柳遺跡群は、湯川右岸の台地上にあって標高689m～700mを測る。本遺跡群内は、昭和43年の佐久市による一本柳住宅団地造成に起因し、宅地化が進んでいる。調査された遺跡は、東一本柳遺跡、北一本柳遺跡、東一本柳古墳、西一本柳遺跡I等があり、弥生時代中期・後期、古墳時代中期・後期、奈良・平安時代、中世の遺物・遺構が多く検出されている。

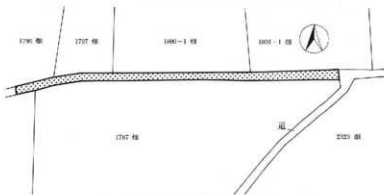
今回、佐久下水道組合が下水道工事を計画したため、市道下の遺構存在を確認するため試掘調査を実施した。



西一本柳遺跡II調査地点近景 (西方から)

### 調査の結果

試掘調査の結果、古墳時代後期の住居址1棟、時期不明の溝状遺構1基等が検出され、弥生時代中期・後期、古墳時代、奈良時代、平安時代の多くの遺物が出土した。この結果市道により破壊されていないことが判明し、協議の結果今回の下水道工事が及ぶ全域を記録保存調査することとなった。



西一本柳遺跡II調査全体図 (1:1,000)

## 32 長土呂遺跡群下聖端遺跡Ⅲ

所在地 佐久市大字長土呂215-2  
 開発主体者 株式会社 信濃住宅  
 開発事業名 事務所建築  
 調査期間 平成4年9月10日  
 面積 719.0㎡  
 調査担当者 三石 宗一



長土呂遺跡群下聖端遺跡Ⅲ位置図(1:10,000)

## 立地と経過

長土呂遺跡群は、佐久市の北部、浅間山南麓末端部地域に位置し、標高は705m～760m前後を測り、南西に向かって緩やかに傾斜する。この地域は、火山山麓特有な地形“田切り”が非常に発達しており、この田切りに挟まれた台地上に長土呂遺跡群・芝宮遺跡群・周防畑遺跡群等の遺跡群が存在する。田切りの幅は50m前後、10～15mの断崖となっている。

下聖端遺跡Ⅲは、長土呂遺跡群の中央付近南側縁辺部に位置し、標高726mを測る。本遺跡群内では、上聖端遺跡、上大林遺跡、下聖端遺跡Ⅰ・Ⅱ、聖原遺跡Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴの発掘調査が実施されている。すでに、聖原遺跡では、800棟を越える竪穴住居址が検出されている。今回、株式会社信濃住宅が事務所建築を計画したので遺構確認調査を実施することになった。

## 調査の結果

南北4本のトレンチを設定し、1トレンチから古墳時代の住居址1棟を検出した。記録保存調査実施後、株式会社信濃住宅の店舗内に(検出された位置に)保存されている。



下聖端遺跡Ⅲ1トレンチ近景(南方から)



下聖端遺跡Ⅲ3トレンチ近景(南方から)



下畑城遺跡田4トレンチ近景（南方から）



下畑城遺跡田遠景（南方から）



下畑城遺跡田調査全体図（1：750）

### 33 長土呂遺跡群下聖端遺跡IV

所在地 佐久市大字長土呂182-1  
 開発主体者 株式会社 関東ガス  
 開発事業名 事務所・倉庫建築  
 調査期間 平成4年9月10日  
 面積 1,139.0㎡  
 調査担当者 三石 宗一



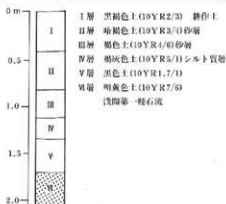
長土呂遺跡群下聖端遺跡IV位置図 (1:10,000)

#### 立地と経過

長土呂遺跡群下聖端遺跡IVは、長土呂遺跡群のほぼ中央に位置し、標高729m前後を測る。この地域は、田切り地形の非常に発達した地域で、この田切りを挟んで北方に芝宮遺跡群、南方に枇杷坂遺跡群が展開している。本遺跡群内では、国道141号バイパス工事に伴い上大林遺跡、下聖端遺跡が発掘調査され、弥生時代後期、古墳時代、平安時代の住居址群が検出されている。佐久流通団地造成事業に伴う聖原遺跡の調査では、古墳～平安時代の住居址群が800棟以上検出されている。

#### 調査の結果

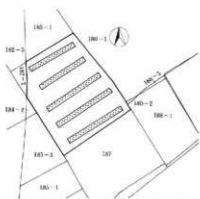
東西に5本のトレンチを入れ遺構の確認をおこなった。調査地点は、聖原遺跡5A地区にみられる小田切り状の低地部分であったと思われる。遺構・遺物は、検出されなかった。



下聖端遺跡IV土層縦断面図



下聖端遺跡IV調査地点近景 (西方から)



下聖端遺跡IV調査全体図 (1:1,500)

## 34 芝宮遺跡群 4

所在地 佐久市大字長土呂775-6  
 開発主体者 株式会社 吉田製作所  
 開発事業名 事務所・工場建設  
 調査期間 平成4年9月11日  
 面積 1,373.0m<sup>2</sup>  
 調査担当者 三石 宗一



芝宮遺跡群4位置図(1:10,000)

### 立地と経過

本調査地点は、芝宮遺跡群のはば中央に位置し、標高740m前後を測る。今回、株式会社吉田製作所により工場及び事務所の建設が計画されたため遺構の存在を確認することを目的として試掘調査を実施した。

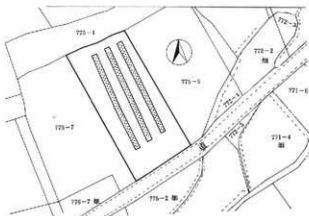


芝宮遺跡群4第2トレンチ近景(南方から)

### 調査の結果

調査対象地内に3本のトレンチを設定し掘り下げを行った。

その結果、遺構の存在は認められなかったが、本遺跡に近接する南上中原・南下中原遺跡、下芝宮遺跡等から古墳時代から平安時代の住居址が検出されていることを考慮すると本遺跡の付近においても該期の遺構の存在することが予想される。



芝宮遺跡群4調査全体図(1:1,500)

## 試掘調査

### 35 長土呂遺跡群 1

所在地 佐久市大字長土呂字上聖  
端159-1  
開発主体者 株式会社 佐々木組  
開発事業名 事務所・展示場・駐車場  
調査期間 平成4年10月12日  
面積 3,956.0㎡  
調査担当者 三石 宗一



長土呂遺跡群1位置図 (1:10,000)

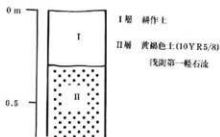
#### 立地と経過

長土呂遺跡群は、佐久市大字長土呂地籍に所在し、田切りに使われた台地上に位置する。本遺跡群内では、昭和63年度に上聖端遺跡、平成元年度から平成5年度まで聖原遺跡の発掘調査が実施され、古墳時代後期から平安時代の堅穴住居址が約850棟検出されている。

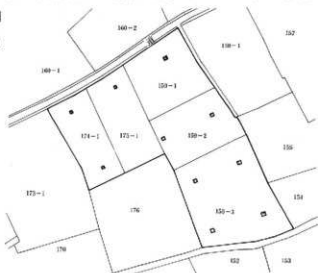
今回、株式会社佐々木組より、事務所・機械展示場・駐車場の建設が計画されたため、遺構の存在を確認するため、試掘調査を実施した。

#### 調査の結果

調査対象地内に、1×1mの試掘ピットを8箇所掘り下げ遺構の確認を行った。その結果、耕作土下約30cmにローム層が確認された。今回の試掘調査では遺構は確認されなかったものの、付近の調査例を考慮すると、古墳時代後期から平安時代の遺構が多数存在していることが予想される。



長土呂遺跡群1土層模式図



長土呂遺跡群1調査全体図 (1:1,500)



## 36 芝宮遺跡群上芝宮遺跡 I

所在地 佐久市大字長土呂775-6  
 開発主体者 佐久市  
 開発事業名 市道建設  
 調査期間 平成4年10月2日  
 面積 470.0㎡  
 調査担当者 小林 真寿



芝宮遺跡群上芝宮遺跡 I 位置図 (1 : 10,000)

### 立地と経過

芝宮遺跡群は佐久市の北部に位置し、古墳時代から平安時代にかけての集落跡として知られている。

本遺跡群は、浅間山の第一軽石流の堆積と浸食により形成された田切り台地上に立地している。

下芝宮遺跡 I・II・III・IV、上高山遺跡、上高山遺跡 II、南上中原遺跡、南下中原遺跡等が発掘調査されている。

今回、佐久市が道路工事を計画したので、事前に遺構確認調査をした。



上芝宮遺跡 I 調査地点近景 (南方から)

### 調査の結果

重機により表土を削平し、精査したところ、調査区北側から古墳時代堅穴住居址 1 棟が検出された。

商工観光課と協議の結果、破壊が余儀なくされ今年度発掘調査を実施することとなった。



上芝宮遺跡 I 調査地点土層

## 試掘調査

### 37 芝宮遺跡群 3

所在地 佐久市大字長土呂750-1  
開発主体者 株式会社 千曲広告  
開発事業名 広告看板設置  
調査期間 平成4年11月19日  
面積 25.0㎡  
調査担当者 森泉 かよ子



芝宮遺跡群3位置図(1:10,000)

#### 立地と経過

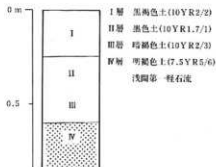
芝宮遺跡群は佐久市の北部に位置し、古墳時代から平安時代にかけての集落跡として知られている。本遺跡群は、浅間山の第一軽石流の堆積と浸食により形成された田切り台地上に立地している。下芝宮遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、上高山遺跡群上高山遺跡Ⅱ、南上中原遺跡、南下中原遺跡等が発掘調査されている。今回、株式会社千曲広告が広告看板を設置することになり試掘調査を実施した。



芝宮遺跡群3調査地点近景(北方から)

#### 調査の結果

幅2.5m長さ10mの看板の支脚にあたる部分にトレンチをいれた。範囲では遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。



芝宮遺跡群3土層模式図



芝宮遺跡群3調査全体図(1:1,500)

### 38 平尾山G地点（棚畑遺跡Ⅰ）・平尾山H地点

所在地 佐久市大字横根1999-1、  
1953、1957-1、1958-1、1959、  
1960、1961-1・2、1962、1963、  
1964、1965、1967

開発主体者 平尾山開発株式会社

開発事業名 平尾富士スキー場浄化槽・  
調整池

調査期間 H地点平成4年11月20～27日  
G地点平成4年12月22日

面積 G地点1,373.0㎡  
H地点6,447.0㎡

調査担当者 小林 真寿 林 幸彦



平尾山G（棚畑遺跡Ⅰ）・H地点位置図（1：10,000）



平尾山G地点（棚畑遺跡Ⅰ）調査近景（南方から）



平尾山H地点調査近景（西方から）

#### 立地と経過

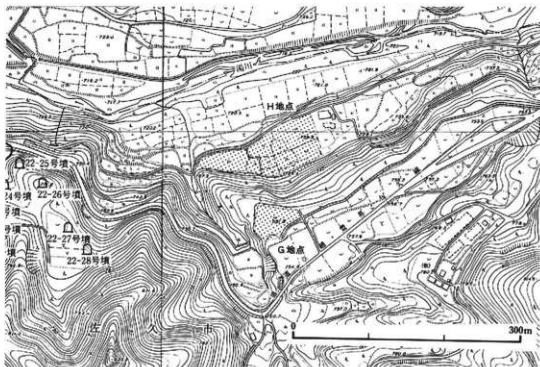
G地点は湯川の河岸段丘上に位置し、ローム層（浅間軽石流）下は砂層である。ローム層は全面を被覆せず、旧微高地部分にのみ堆積している。

当該地は周知されている遺跡ではなかったが、スキー場を中心とするリゾートが計画されたため、平成3年度に手塚による試掘調査が実施され、新たに縄文時代の遺跡として周知されたものである。その際にG地点と仮称された。今回、平尾山開発株式会社によ

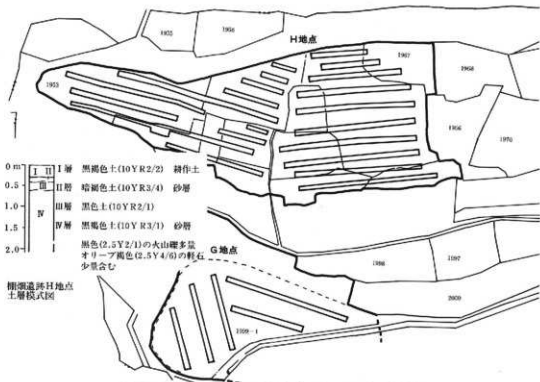
り浄化槽工事が計画されたため試掘調査を実施した。さらに、下位の段丘上にも調整池工事が計画されていたためH地点とし試掘調査を実施した。

#### 調査の結果

G地点からは、整理箱に半分ほどの縄文時代中期初頭の五領ヶ台式土器が出土し、該期の住居址の存在が予想される。H地点から遺構の検出はなく、数点の縄文時代の土器片が出土した。

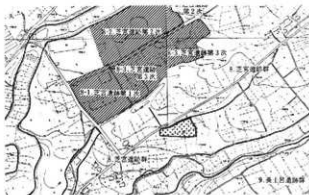


平尾山G地点(棚畑遺跡1)・H地点地形図(1:5,000)



平尾山G地点(棚畑遺跡1)・H地点調査全体図(1:5,000)、土層模式図

所在地 佐久市大字長土呂60-1,761-3  
 開発主体者 出光興産株式会社  
 開発事業名 ガソリンスタンド建設  
 調査期間 平成4年12月4・5日  
 面積 2,159.0㎡  
 調査担当者 林 幸彦 佐々木 宗昭



芝宮遺跡群南下中原遺跡II位置図（1：10,000）

立地と経過

芝宮遺跡群は佐久市の北部に位置し、古墳時代から平安時代にかけての集落跡として知られている。本遺跡群は、浅間山の第一軽石流の堆積と浸食により形成された田切り台地上に立地している。下芝宮遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、上山遺跡群上山高山遺跡Ⅱ、南上中原遺跡、南下中原遺跡等が発掘調査されている。

今回、出光興産株式会社松本支店がガソリンスタンド建設を計画したため事前に試掘調査を行い遺構の有無を確認することとなった。

調査の結果

東西に6本南北に11本のトレンチを設定し重機により表土を除去し、精査した。

その結果、東側の一部を除きほぼ全域から遺構が検出された。遺構は、住居址4棟、掘立柱建物址1棟、溝状遺構2基が確認された。このうち1棟は南下中原遺跡Ⅰで調査された住居址の北側の一部である。遺物は古墳時代から平安時代の土器が出土した。

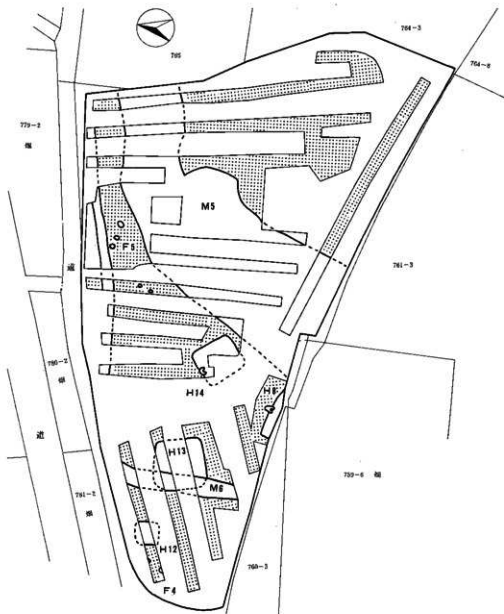
協議の結果、本年度に緊急発掘調査を実施することとなった。



南下中原遺跡II調査地点近景（南方から）



南下中原遺跡II調査地点近景（東方から）



南下中原遺跡Ⅱ調査全体図（1：500）

## 40 岩井堂遺跡

所在地 佐久市大字岩村田2562-1・2・3  
 開発主体者 株式会社コミュニティーサービス  
 開発事業名 宅地造成  
 調査期間 平成4年12月7日  
 面積 1,829.0㎡  
 調査担当者 林 幸彦



岩井堂遺跡位置図(1:10,000)

### 立地と経過

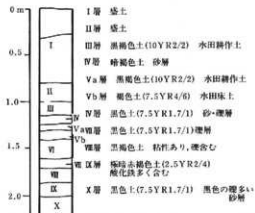
本遺跡は湯川の右岸にあって、標高683.5mを測り、湯川との比高は3.5mである。弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代の遺物が表採されている。18mほど上位の台上には、上の城遺跡群が所在し弥生時代中期から平安時代の集落が発掘調査されている。直上には藤ヶ城跡がある。

### 調査の結果

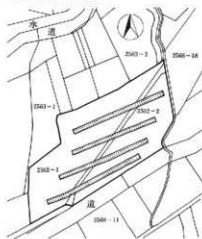
東西に4本のトレンチを入れて重機により表土を削平した。精査したが遺構は検出されなかった。



岩井堂遺跡調査地点近景(西方から)



岩井堂遺跡土層模式図



岩井堂遺跡調査全体図(1:1,500)

## 試掘調査

### 41 栗毛坂遺跡群10

所在地 佐久市大字岩村田42-1  
 開発主体者 株式会社ニッパンサービス  
 開発事業名 事務所建設・資材置き場  
 調査期間 平成4年12月9日  
 面積 1,683.0㎡  
 調査担当者 林 幸彦



栗毛坂遺跡群10位置図 (1:10,000)

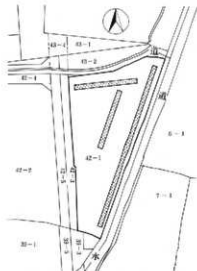
#### 立地と経過

栗毛坂遺跡群は、湯川に架かる漬石橋から御代田町境にかけて広く展開し、標高は705m～760mを測る。

仙萩湖一帯は上信越自動車道のインターチェンジがおかれ、現在佐久市岩村田北部土地区画整理事業がすすめられ、区画内での店舗建築や区画事業に関する道路工事が頻繁に行われている。今回、株式会社ニッパンサービスが事務所等を建設することになり試掘調査を実施した。

#### 調査の結果

南北3本のトレンチいずれからも遺構・遺物は、検出されなかった。



栗毛坂遺跡群10調査全体図 (1:1,500)

0 m	I 層	黒褐色土(10YR2/3) 水田耕作土
	II 層	暗赤褐色土(2.5YR2/3) 水田床土
	III 層	黒褐色土(10YR2/2) 砂質土
0.5	IV 層	黒褐色土(7.5YR1.7/1) 粘土層(1cm)
	V 層	黒褐色土(10YR2/2) 水田耕作土か?
	VI 層	黒褐色土(5YR2/2) 水田床土か? 軽石(2.5YR8/2)を含む
1.0	VII 層	暗赤褐色土(5YR3/4) 砂、小礫 (1~3cm)、軽石(2.5YR8/2)を含む
	VIII 層	にがい赤褐色土(5YR4/3)シルト質土
1.5	IX 層	黒褐色土(7.5YR1.7/1) 粘質あり
	X 層	暗褐色土(10YR3/4) 軽石(10YR7/4) 多い
2.0	XI 層	明褐色土(7.5YR5/8) 軽石(10YR7/4) 多い、浅間砂-軽石流

栗毛坂遺跡群10土層模式図



栗毛坂遺跡群10調査地点近景(南方から)



## 試掘調査

### 42 長坂口遺跡群 2

所在地 佐久市大字根岸1371  
開発主体者 日向区  
開発事業名 日向区公民館建設  
調査期間 平成4年7月20・21日  
面積 302.1㎡  
調査担当者 林 幸彦



長坂口遺跡群1・2位置図(1:10,000)

## 立会い調査

### 43 長坂口遺跡群 1

所在地 佐久市大字根岸1372-1外  
開発主体者 佐久市土木課  
開発事業名 道路工事  
調査期間 平成4年10月20日  
面積 228.0㎡  
調査担当者 林 幸彦



長坂口遺跡群1調査地点近景(北方から)

## 立地と経過

長坂遺跡群は、日向地区の中央を北流する中沢川の左岸に所在し、標高700m前後を測る。北に隣接して縄文時代中期の集落が調査された中村遺跡が存在する。また、西方の山腹に釜塚古墳が、南西の尾根上には日向城跡が、北方には御陵古墳が存在する。現在、中沢川の対岸では縄文時代中期の集落址である山法師遺跡の発掘調査が進められている。今回、日向区が公民館を、佐久市土木課が市道工事を計画したので試掘調査と立会い調査を実施した。



長坂口遺跡群2調査地点近景(北方から)

調査の結果

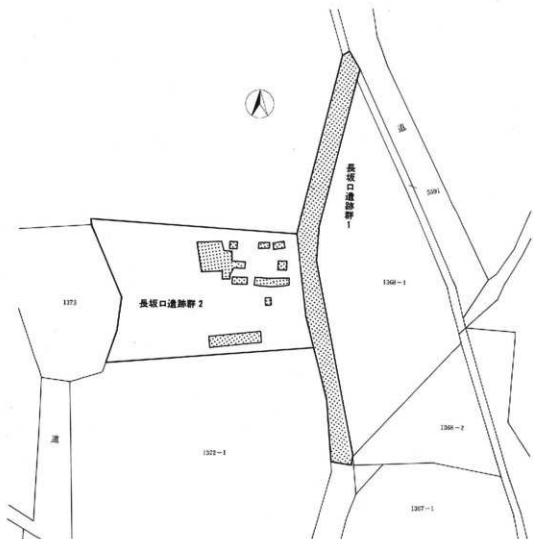
長坂口遺跡群1では、遺構はみられず縄文時代中期の土器片が数点出土した。長坂口遺跡群2では遺構・遺物ともみられなかった。



長坂口遺跡群 2 調査地点近景 (東方から)



長坂口遺跡群 2 調査地点近景 (西方から)



長坂口遺跡群 1・2 調査全体図 (1 : 1,000)

所在地 佐久市大字根岸  
 開発主体者 荻原地区土地改良組合  
 開発事業名 土地整備事業  
 調査期間 平成4年12月15日～平成  
 5年1月15日  
 面積 12,564.0㎡  
 調査担当者 林 幸彦



立石遺跡3位置図 (1:10,000)

立地と経過

立石遺跡は、標高676～705mを測り、立地的には蓼科山北西麓の丘陵末端部付近佐久平を見おろす位置にある。

本遺跡では縄文時代の遺物が採集されている。近接して石附遺跡が存在しており、須恵器窯址群、木炭窯址群、さらには、古墳時代の方形周溝墓が発掘調査されている。

本遺跡を含む一帯は、荻原地区土地整備組合により21,000㎡の農地整備が行われており、今回の試掘調査は、一昨年・昨年に続き第3次の試掘調査となる。

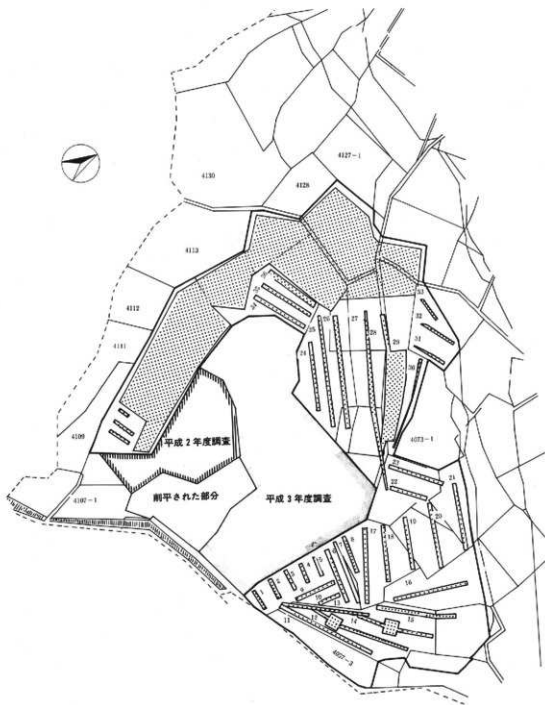
調査の結果

調査の結果、西側の石附川に面した斜面から1基の火葬墓とみられる土壇が検出された。すでに、昨年の調査部分は掘削されており、新生代第四紀洪積世の地層である相浜層が露出していた。今後、



立石遺跡にみられる相浜層(南東方から)

遺跡の南西方でも同様の開発が予想される。対象地内において須恵器が表採できたという情報もあり遺跡の保護に注意が必要の地域である。



立石遺跡3調査全体図（1：2,000）



立石遺跡にみられる相沢層（東方から）



立石遺跡にみられる相沢層（南方から）